



『東北圏だより』

新年のご挨拶

東北圏広域地方計画協議会 会長（一般社団法人 東北経済連合会 会長）高橋 宏明

新たな年を迎え、一言ご挨拶を申し上げます。

東日本大震災の発生からこの3月で丸5年が経過します。東北圏の復興は、これまでの「集中復興期間」（平成23年度から平成27年度）から、今後の5年間は「復興・創生期間」（平成28年度以降5年間）へと、新たな段階を迎えます。しかし、復興の現状を見ると、依然約19万人の人々が避難生活を余儀なくされており、防災集団移転促進事業等の被災地におけるまちづくりも未だ約6割（平成27年9月末現在）（※）の状況であるなど、復興は道半ばにあります。今後、私たちは、復興を完全に成し遂げるとともに、人口減少や高齢化等の諸課題にも対応した「新しい東北圏」を実現するため、引き続き努力していくことが求められています。



こうした中、この3月に、一昨年9月から東北圏広域地方計画協議会にて鋭意議論を進めてきた「東北圏広域地方計画」が国土交通大臣決定される予定です。

本計画は、東日本大震災からの迅速な復興を最優先課題として、人口減少・高齢化社会に対応した「コンパクト+ネットワーク」のまちづくり、地域の産業の活性化や観光の推進、日本海・太平洋2面活用型国土の形成による国内外との交流・連携の促進等を柱とした、今後10年間に東北圏が推進すべき地域戦略を纏めたものです。

折しも、この3月26日に、いよいよ北海道新幹線が開業します。東海道新幹線の誕生から約50年の時を経て開業する北海道新幹線は、東北・北海道地域の更なる発展に向けた大きな可能性を秘めています。

また、高速道路等においては、現在震災復興プロジェクトとして整備が進む三陸沿岸道路や日本海沿岸地域で整備中の日本海沿岸東北自動車道等の縦軸、それらを結ぶ横軸の整備が進展することにより、10年後には東北圏全域に速達性、信頼性の高い高速交通ネットワークの効果が波及し、生産性の向上が期待されます。

まさにこれからの10年間は、東北圏に国内外からヒト、モノ、カネ、情報を「呼び込む」千載一遇のチャンスと言えます。この機を逸することなく、各種産業の振興を図り、世界最先端の国際研究拠点の誘致や、医療、ロボット等先端産業の集積等により、産業分野の裾野を拡大いたします。

また、基幹となる農林水産業分野においては、6次産業化等を推進し、若者・女性等の就業拡大と定住人口の拡大を図ることが重要です。

さらに、圏域内の特色ある自然環境や歴史・文化資源を巡り歩く、広域観光サービスを積極的に提供し、観光産業の裾野を広げることにより、観光産業の基幹産業化を目指すとともに、交流人口の大幅な拡大を図っていくことに繋がりたいと考えます。

今年は、新たな東北圏広域地方計画の10年間のスタートする年です。各構成機関の皆様におかれましては、この3月の国土交通大臣決定に向け、引き続き改定作業へのご協力を頂きますとともに、本計画策定後の着実な実行につきましても、ご協力を頂きますようお願い申し上げます。

（※）復興まちづくり（民間住宅等用地（防災集団移転促進事業、土地区画整理事業、漁業集落防災機能強化事業の3事業の合計）の完了率（地区数）

（復興庁ホームページ「公共インフラの本格復旧・復興の進捗状況（平成27年9月末時点）

仙台市地下鉄東西線が開業しました

仙台市

平成 27 年 12 月 6 日に開業した仙台市地下鉄東西線は、昭和 62 年に開業した南北線に続く仙台市として 2 路線目の地下鉄です。

市南西部の八木山動物公園付近から東北大学のある青葉山を経て、仙台駅で地下鉄南北線と交差し、流通業務が集積する東部地区を經由し、荒井に至る 13.9km、13 の駅を 26 分で結びます。

東西線に導入する 2000 系車両は、小さい曲線を走行でき、登坂能力にも優れているリニアモーター式地下鉄車両で、傾斜が大きい東西線の路線特性に適合した車両です。

仙台らしさなどを表すアイデアを地元高校生の皆さんに考えていただき、それに基づき車両デザインコンセプトを決定しました。車両の前面には、伊達政宗公のかぶとの「前立て」をイメージした三日月形のデザインを配し、4 両編成のアルミ製車体上部の水色ラインは「空・川・海」。中央部の 4 色のスクエアドットは自然や人が調和している仙台の街を表現しています。

駅舎や車両設備の特徴は、今の時代の要請に応じたバリアフリー構造です。高齢の方や障害をお持ちの方の意見を取り入れ、利用者の移動負担が少なく、誰もが快適に利用できるように工夫しています。

車椅子を利用されている方をはじめ、誰もが使いやすい「ひろびろトイレ」を全駅に最低 2 カ所設置しているほか、「すき間調整材」を用いて、車両とホームの隙間をできるだけ小さくしています。また、すべての改札口の幅を大きく広げることで、車椅子やベビーカーでも通やすくしています。

地下鉄東西線の開業により、南北線と合わせて本市における十文字の骨格交通軸が完成したことは、本市の今後のまちづくりにおきましても、大きな契機となります。

開業に向けては、市民参加型のプロモーション「仙台市地下鉄東西線 WE」プロジェクトを進めてきました。WE とは、West（西）と East（東）の頭文字と、「We(私たち)」の 2 つの意味を持ち、市民の皆さんに東西線を軸に展開されるさまざまな活動に参加してもらうことにより、東西線が「地下を走り移動するだけの乗り物」から、「人と人、人とまちをつなげる存在（＝まちのコミュニケーションツール）」になることを目指しています。

WE プロジェクトでは、2,000 人を超える市民が笑顔を寄せた「モザイクアート」や、開業前の地下鉄駅を舞台に市民がパフォーマンスを繰り広げるスペシャルイベント「WE STAGE」など様々な企画を実施し、開業を盛り上げました。また、開業後も市民の皆さんの手で、イベントや展示、セール等が「WE WEEKS」として開催され、まちはお祝いムードに包まれています。

今後は、これまでの取り組みを通じて機運が高まっている市民の皆さんのまちづくりへの参画を得ながら、にぎわいを創出していくとともに、沿線開発の誘導などを行い、仙台の新たな活力と魅力の源泉となるよう、地下鉄東西線沿線まちづくりを進めていきます。



▲広瀬川橋梁を走る東西線



▲ひろびろトイレ



▲すき間調整剤



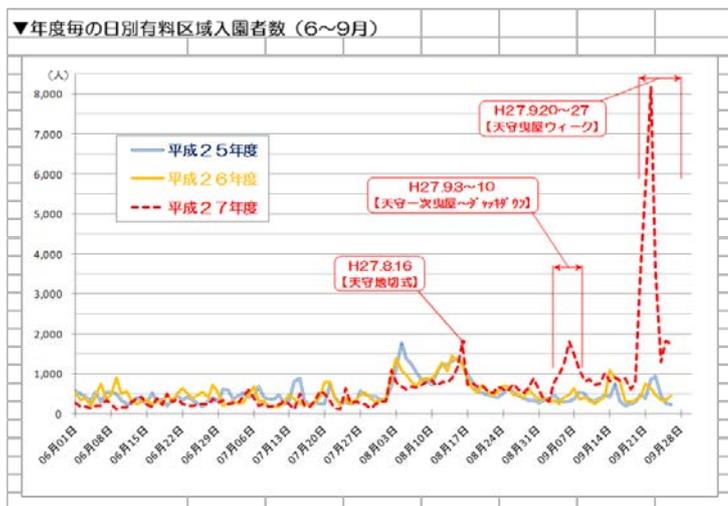
▲WE STAGEの様子

弘前市には、城下町の町割りをベースに形成されたコンパクトな街の中に藩政期の建築、明治大正期の洋風建築、昭和期の近代建築、前川國男の作品群などが現存しています。また、東北初の歴史的風致維持向上計画認定都市であり、「日本の奥の院・東北探訪ルート」形成計画では広域観光拠点地区の1つとして位置づけられ、観光振興の一環としても歴史まちづくりを進めています。

現在、日本の城の天守のうち江戸時代以前に建設され現代まで保存されている「現存 12 天守」の1つ、弘前城本丸の石垣修理事業を進めています。本事業による石垣修理は、弘前城天守の真下でも行われるため、天守を移動する必要があり、高さ 14.4 メートル、総重量約 400 トンの 3 層からなる天守を約 3 ヶ月かけて移動させました。単なる内向きな修理に留まるのではなく、大正 4 年の石垣修理以来 100 年ぶりの「城普請」を千載一遇のチャンスにとらえ、「魅せる工事」として全国に発信していきました。通常は水が張られて立ち入ることができない内濠を埋め立てて一般開放したことにより、内濠から見上げる天守と石垣のダイナミックさを感じられた「内濠観覧」や、約 400 トンの天守を 27 台のジャッキで約 10 センチ持ち上げ、曳屋の本格スタートとなった「天守地切式」などを着実に展開し、中でも、1 日に 4~5 回、約 100 人が曳屋体験をするイベント「天守曳屋ウィーク」は県内外の多くの参加者で賑わいました。

天守曳屋ウィークは、2 日目の 9 月 21 日に有料区域入園者数がピークを迎え、曳屋体験者数は全日程を通して 3,901 人、そのうち市外からの体験者は約 1,800 人となりました。そして、全体を通して、8 日間で 30,558 人の集客効果が得られました。9 月上旬から天守曳屋が開始され、特に天守曳屋ウィークの効果により全国各地から観光客が訪れ、有料区域入園者数は、過去 2 年の 9 月 1 ヶ月間の約 3.7 倍と大幅に急増し、集客効果が図られました。

弘前市では、ほかにも歴史的な建造物の活用などを積極的に進めており、今後は、訪日外国人の受入環境の整備に努め、より一層の地域活性化を図っていきたいと考えています。歴史的資源を活用した観光振興としての歴史まちづくりは、市民がまちに誇りをもつ効果も期待され、将来的には持続可能なまちづくりの実現につながっていくものと考えています。



▲曳屋体験の様子

第 29 回東北圏広域地方計画協議会検討会議 幹事会の開催報告

去る12月22日（火）に第29回東北圏広域地方計画協議会検討会議幹事会が開催されました。今回の幹事会では、新たな東北圏広域地方計画の原案（素案）等についての説明を行い、各構成機関より了解が得られました。

今後も、各構成機関の皆様には新たな東北圏広域地方計画の策定に向けて、様々な依頼をすることになるかと思いますが、ご協力のほど、よろしくお願ひいたします。

東北圏広域地方計画推進室



▲幹事会の様子

編集後記

新年あけましておめでとうございます。年末年始はゆっくり過ごされ身も心もリフレッシュされたことと思います。昨年は、構成機関の皆様のご協力を得ながら、新たな東北圏広域地方計画の策定作業を進めてまいりました。本年も、引き続きご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

『東北圏だより』に掲載する広域地方計画に関連する情報をお寄せ下さい。また、『東北圏だより』へのご質問、ご意見、ご要望等についても結構です。お気軽に次のアドレスまでメールでお寄せ下さい。メールアドレス：kou-suishin2@thr.mlit.go.jp